

健康成分含む農産物やその加工食品、6割が「食べたい」 農産物の新市場として期待高まる

－ 日本公庫・平成25年度上半期消費者動向調査（特別設問） －

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が7月に実施した平成25年度上半期消費者動向調査で、農産物の新たな市場として期待される「健康を増進する成分を含む農産物やその加工食品」に対する消費者の意識を調査したところ、6割が「食べたい」と回答するなど消費者の期待を示す結果となりました。詳細は以下のとおりです。

<調査結果のポイント>

○ 20歳代女性が「ぜひ食べたい」などの積極回答(図1)

消費者に対して「健康を増進する成分を含む農産物やその加工食品」への意識について聞いたところ、「試しに食べてみたい」を含めた「食べたい」の回答が全体で男性が56.2%、女性が57.9%に達し、「食べたくない」の男性28.0%、女性30.2%を上回り、消費者の期待を示す結果となった。

そのうち、20歳代の女性は、「食べたい」の回答割合が最も高く63.0%で、「ぜひ食べたい」とする積極的な回答も14.5%に上り、20歳代女性の期待の高さがうかがえる。

また、「食べたくない」の内訳としては、「効果が不明なので食べたくない」や「安全性が不安なので食べたくない」の回答が含まれており、その効果や安全性について消費者に分かりやすく情報提供する必要性も明らかとなった。

○ 7割の消費者は割高でも購入(図2)

「試しに食べてみたい」を含めて「食べたい」と回答した者に、従来の農産物や加工食品に対する価格許容度を聞いたところ、「割高でも購入」するの回答が65.6%にのぼった。生産者の立場からは、新たな付加価値を持つ農産物として期待されるところだが、そのためには、消費者が日常の食事の中で継続的に摂取できるような環境整備も必要といえる。

調査時期	平成25年7月1日～7月10日
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査対象	全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

図1 年代別 「健康を増進する成分を含む農産物の新品種」を食べたいかどうか

- ぜひ食べたい
- 試みに食べてみたい
- 高そうなので食べたくない
- 味が同じなら食べたい
- 効果が不明なので食べたくない
- 必要を感じないので食べたくない
- 必要があれば食べたい
- 安全性が不安なので食べたくない
- 分からない



図2 年代別 価格許容度（食べたいと回答した人）

